

令和8年(2026年)7月9日(木曜日)

## 台湾の大学院生「中間型組織」調査 GW三島で役割など学ぶ

台湾で生涯学習や地域づくりを推進する「社区大学全国促進会」職員で国立暨南(きなん)国際大学の大学院生、柯穎瑄さん(31)が、修士論文執筆のため三島市のNPO法人グラウンドワ



行政と民間を結ぶ組織の役割を調べる柯さん(左)  
三島市のGW三島

ーク(GW)三島で研修を行っている。  
同促進会、GW三島、同大が結ぶ連携協定に基づき、柯さんは6月26日から7月15日まで特別研究員として滞在する。行政と民間

の間に立ち、政策の橋渡しや地元の行動を促す「中間型組織」としてのGW三島の役割や運営メカニズムを、GW三島や企業など関係者へのインタビューや現場調査を通じて学んでいる。  
柯さんは台湾で約80団体が加わる「流域学校連盟」

の活動に携わる。「歴史あるGW三島の成功事例を解析し、地元の川を守る仕組みづくりに生かしたい」と話す。  
滞在中の息抜きには源兵衛川を散歩し、日本で安く手に入る生野菜を取り入れた毎日の自炊も楽しんでいるという。